

化学物質等安全データシート

MSDS整理番号: 15000900

作成年月日: 2007年05月25日
改正年月日: 2014年10月31日

1. 名称

製品名: ステンレスコート P T Yタイプ (硬化剤)

2. 成分及びその含有量

危険有害性成分 (化学名又は一般名)	濃度%	CAS No.	PRTR法 政令No	安衛法別表第9 通知物質番号
五酸化リン	50.0	105-78-9	非該当	非該当
金属箔粉顔料 SUS316-L	50.0		非該当	非該当

3. 物理的及び化学的性質

- ・ 外観状態: (20 °C) パテ状
- ・ 色相: 銀色
- ・ PH値:
- ・ 臭気: 無臭
- ・ 沸点: 126 °C
- ・ 蒸気圧: --- Pa (--- °C)
- ・ 密度: 密度 (比重) 1.33±0.05 (20°C)
- ・ 引火点: --- °C
- ・ 発火点: 514 °C
- ・ 爆発限界: --- % ~ --- %
- ・ その他: 特に情報を有していない

4. 人体に及ぼす作用 (危険有害性情報)

- ・ 刺激性 - なし
- ・ 急性毒性 - なし
- ・ 慢性毒性 - なし
- 液体を飲み込んでも人体に対しての毒性、反応性は無いが、食用ではないので、飲食を薦めるものではない。
- ・ 生殖毒性 - 情報ナシ
- ・ その他 - 危険性、有害性はなし。
- ・ 日本産業衛生学会の調査では当該物質の発癌性に関する記載なし。

危険有害成分	急性毒性 (LD50[mg/Kg])	慢性毒性 吸入毒性 (LC50[ppm])	感作性	変異原性	催奇形性	生殖毒性
不含有	4300 ラット	8000 4h ラット 5320 8h マウス	記載ナシ	菌類の試験で 変異原性なし	動物実験で催奇形性は認められず	情報ナシ

- ・ その他: 危険性、有害性はなし。
- ・ 日本産業衛生学会の調査では当該物質の発癌性に関する記載なし。

5. 貯蔵又は取扱上の注意

・引火性なし

[取扱い]

- 労働安全衛生法等の関連法規に遵守して作業を行うこと。
- 容器は密封された材料や用途以外には絶対に使用しないこと。
- 指指定された用途以外には絶対に使用しないこと。
- 指指定された用途以外には絶対に使用しないこと。

[保管]

- 保管は出来るだけ涼しく直射日光の当たらない一定の場所を定め、完全にフタをし、
- 施設貯蔵場所へは、等々の高温熱源のある所を避け、通風を良くして換気の良い場
- 所へは、常に清潔を保つこと。
- 容器は常に清潔を保つこと。
- 保管、貯蔵は子供の手の届かない所とすること。

[廃棄]

- 環境への放出を避け、廃棄する場合は、都道府県知事の認可を受けた産業廃棄物処理業者に委託して廃棄すること。

6. 流出その他の事故が発生した場合の処置

[緊急時の応急措置]

- ・ 眼に入った場合：
 - 可能であれば、目を外し、すぐに多量の綺麗な流水で15分以上洗浄すること。
 - 付着物を布で拭き取り、大量の水及び石鹸の使用不可。
 - 汚れた衣服を再使用する場合は、必ず洗濯して使用すること。
 - 皮膚に付いた場合：
 - 汚れた衣服を再使用する場合は、必ず洗濯して使用すること。
 - 皮膚に付いた場合は、直ちに医師の診断を受けること。
- ・ 吸入した場合：
 - 気化性成分は含んでいない。
- ・ 飲み込んだ場合：
 - 患者に意識がある場合は、水かぬるま湯で口を潤ぐ程度で、
 - 意識的に吐かせないこと。
 - 意識的に吐かせないこと。
- ・ 暴露懸念の場合：
 - 気化性成分は含んでいない。

[火災時の措置]

- ・ 初期対応
 - 人を災現時場に直ちに風上や風上を避けること。
 - 初期消火は、風上から行い、燃焼源を絶つこと。
 - 災害の拡大を防止し、安全な場所へ移動すること。
 - 移動可能な可燃物は、物の周辺及び容器に散水すること。
 - 消火を行う場合は、指定された消火剤や消火設備を用いること。
 - 粉末消火剤、炭酸ガス、ハロゲン化物、乾砂等（乾砂等）を取り除き、
 - 漏出液の付近を非難させ、消火すること。
 - 風上から消火すること。
 - 化学性液体の漏出は、ガスを発生させるので、特に屋内では窓を開け、
 - 換気を行うこと。
 - ガス発生が多い場合は、噴霧注水等で冷却し蒸気発生を抑制すること。
 - 漏出液は、砂や不活性吸収剤、ウエス等に吸着させ、密閉式の容器に回収すること。
 - 回収作業は、安全な場所で行うこと。
 - 回収作業は、保護具（特別個人保護具、自給式呼吸器、手袋、保護眼鏡、エプロン等）を装着着用して、風上から作業すること。
 - 漏出液は、排水口、側溝、河川等には絶対に流さないこと。
- ・ 消化方法
 - 初期消火は、風上から行い、燃焼源を絶つこと。
 - 災害の拡大を防止し、安全な場所へ移動すること。
 - 移動可能な可燃物は、物の周辺及び容器に散水すること。
 - 消火を行う場合は、指定された消火剤や消火設備を用いること。
 - 粉末消火剤、炭酸ガス、ハロゲン化物、乾砂等（乾砂等）を取り除き、
 - 漏出液の付近を非難させ、消火すること。
 - 風上から消火すること。
 - 化学性液体の漏出は、ガスを発生させるので、特に屋内では窓を開け、
 - 換気を行うこと。
 - ガス発生が多い場合は、噴霧注水等で冷却し蒸気発生を抑制すること。
 - 漏出液は、砂や不活性吸収剤、ウエス等に吸着させ、密閉式の容器に回収すること。
 - 回収作業は、安全な場所で行うこと。
 - 回収作業は、保護具（特別個人保護具、自給式呼吸器、手袋、保護眼鏡、エプロン等）を装着着用して、風上から作業すること。
 - 漏出液は、排水口、側溝、河川等には絶対に流さないこと。

[消火剤
漏出時の措置]

7 通知を行う者の氏名、住所、電話番号

社名：株式会社テクノインターナショナルコーポレーション
 住所：〒104-0032 東京都中央区八丁堀4-11-10
 担当部署：営業技術部
 担当者名：井上直樹
 電話番号：03-3555-0720
 FAX番号：03-3555-0617

8. 危険性又は有害性の要約

- ・引火性液体 [----] 引火性液体および蒸気なし
 - ・皮膚刺激性 [----] 皮膚刺激性なし
 - ・眼刺激性 [----] 強い眼刺激性なし
 - ・発がん性 [----] 発がんのおそれの疑いなし
 - ・生殖毒性 [----] 生殖能または胎児への影響のおそれなし
 - ・全身毒性 [----] 麻酔作用、眠気およびめまいのおそれなし
 - ・全身毒性/単回復 [----] 中枢神経系、神経系、呼吸器、腎臓、肝臓障害のおそれなし
 - ・全身毒性/単回復 [----] 呼吸器への刺激のおそれなし
 - ・急性毒性 [----] 長期または繰り返し吸入すると有害のおそれなし
 - ・水生環境急性毒性 [----] 水生生物に非常に強い毒性のおそれなし
 - ・水生環境慢性有害性 [----] 水生生物に毒性の影響により水生生物に毒性
- [安定性] - 通常状態では安定である。長期保存した場合は製品が劣化する。
 [反応性] - 接触による危険な反応性。特に情報がない。
 - 燃焼による危険な反応性。CO、低分子などの有害ガスが発生。
 - その他の反応性情報。標準条件では危険な反応はしない。

[貯蔵又は取扱上の注意]

- [貯蔵]
- ・保管は出たままの状態で直射日光の当たらない一定の場所を定め、完全にフタをし、
 - ・貯蔵場所へは、高温熱源のある所を避け、通風を良くして換気の良い場
 - ・容器は常に密封し、使用済容器については一定の場所を定め、施錠
 - ・保管は子供の手が届かない所とすること。
- [取扱い]
- ・労働安全衛生法等の関連法規に遵守して作業を行うこと。
 - ・必ず注意する時は、眼鏡、保護手袋、保護マスク等を着用し、眼や皮膚に皮膚に触れないよう
 - ・取扱後は、鼻の洗浄等を行い、衣服等に付着した場合は、汚れた衣類の再着用不可。
 - ・塗料の付着は、塗料力スプレーダストは廃棄するまで水に浸けておくこと。
 - ・取扱い作業中は、粉塵発生を極力抑え、作業環境を管理濃度
 - ・中身に容器が破損、漏れ、腐食、割れ等がないことを確認し、周囲にこぼれない様に充分注意すること。
 - ・容器は密封された状態で取り扱われ、粗大な物を使用し、転倒、落下、衝撃を加えた
 - ・指定された用途以外には絶対使用しないこと。
 - ・指さされた用途以外には絶対使用しないこと。
- [廃棄]
- ・環境への放出を避け、廃棄する場合は、都道府県知事の認可を受けた産業廃棄物処理業者に委託して廃棄すること。

9. 安定性及び反応性

- [安定性] - 通常状態では安定である。
 [反応性] - 接触により危険な物質。
 - 燃焼等による有害ガス発生。
 - その他の反応性情報。
- 長期間保存した場合は製品が劣化する。
 - 特に情報を有していない。
 - CO、低分子モノマーなどの有害ガスが発生。
 - 標準条件下では危険な反応はしない。

10. 適用される法令

- [労働安全衛生法] : 該当する物質は含んでいない。
 [国連番号] : 該当する物質は含んでいない。
 [船舶安全法] : 該当する物質は含んでいない。
 [航空法] : 該当する物質は含んでいない。
 [港則法] : 該当する物質は含んでいない。
 [海洋汚染防止法] : 該当する物質は含んでいない。
 [PRTTR法] : 該当する物質は含んでいない。

11. その他参考となる事項

[組成物質の有害性および暴露基準濃度]

物質名	管理濃度	ACGIH(TLV)	経口毒性 LD50	ARCクラス

- 主な引用文献 : 日本塗料工業会編集『原材料物質データベース』
 : 日本塗料工業会編集『製品安全データシートガイドブック(混合物用)』
 : オーム社『溶剤ポケットブック』
 : 危険物防災救急便覧
 : 国際化学物質安全カード(ICSC)

- [注意] * このMSDSは、当社の製品を適正にご使用頂くために必要で、注意しなければならぬ事項を簡潔にまとめ、通常取扱を対象としたものです。
 * 記載内容は、現時点で入手した資料、情報、データに基づき作成しておりますが、危険有害性に関する評価は必ずしも充分なものではありませんので、取扱には充分注意して下さい。
 * このMSDSは、法令の改正、新しい知見により予告なく改正する事があります。
 * このMSDSは、国の規制を含む(社)日本塗料工業会の基準に基づくものではありませんが、地方自治体の規制情報は含まれておりませんので、各当該自治体の規制に従って下さい。